

2007年3月（第80回）景気定点観測アンケート

景気認識・今後の見通しがやや好転

世界連鎖株安が発生するも、アンケート結果に大きな影響はなし

**経** 済同友会は3月20日、2007年3月期の景気定点観測アンケート調査結果を発表した（回答数212名）。

今回の調査では、景気の現状について「拡大」または「緩やかに拡大」と回答した会員が86%と、前回12月調査時の83%から増加し、「横ばい」（17%→13%）が減少。今後の見通しについても、「拡大」または「緩やかに拡大」という見方が83%と多く、前回調査に比べ改善した。2月27日に上海株式市場に端を発する世界連鎖株安が発生したが、アンケート結果に大きな影響はなかった。

また、今回のトピックスとして「雇用関連」、「金融政策」の2項目についても調査を行った。労働コストについては、「上昇する」が43%、「横ばい」が40%と

続いた。2007年度の平均賃金については、回答を加重平均すると1.26%の上昇となった。残業時間は71%の経営者が「多い」「やや多い」と感じ、長時間労働が減らない理由は「仕事の過多」が58%、「季節性」が37%であり、長時間労働を減らすためには「上司が部下を帰宅させる」が43%、「フレックス、裁量労働制導入」が39%を占めた。

また、今回のトピックスとして「雇用関連」、「金融政策」の2項目についても調査を行った。労働コストについては、「上昇する」が43%、「横ばい」が40%と

景気の現状について

Q 現在のわが国の景気動向をどのように判断されますか。

	全 体					(社) 経済同友会	各地代表幹事
	06年3月	06年6月	06年9月	06年12月	07年3月		
拡大している	18.8	9.6	7.3	3.0	1.4	0.6	3.6
緩やかに拡大している	77.2	82.8	82.8	80.2	84.9	86.5	80.4
横ばい状態が続いている	3.6	7.1	9.2	16.9	12.7	11.5	16.1
緩やかに後退している	0.0	0.0	0.8	0.0	0.9	1.3	0.0
後退している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

各地代表幹事についても前回大幅減だった「拡大」が増加し、景気認識がやや好転したものとみられる。

2007年度前半（07年4月～9月）の景気見通しについて

Q 2007年度前半（07年4月～9月）の景気についてどのようにお考えですか。

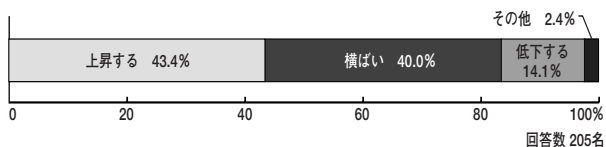
	全 体				(社) 経済同友会	各地代表幹事
	現状判断※	06年9月時*	06年12月時*	今後の見通し		
拡大する	1.4	9.6	2.1	1.9	1.9	1.8
緩やかに拡大する	84.9	82.8	65.0	80.7	82.7	75.0
横ばい状態が続く	12.7	7.1	30.4	15.6	13.5	21.4
緩やかに後退する	0.9	0.0	1.7	0.9	1.3	0.0
後退する	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.4	0.4	0.9	0.6	1.8

※注）今回調査の景気判断の数値です。  
 ※注）06年9月時の回答は06年10月～07年3月、06年12月時の回答は07年1月～6月についての見通しです。

トピックス——雇用関連

Q 貴社の労働コスト（\*）は今後どのように推移するとお考えですか。

\*：労働コスト＝人件費／（人件費＋経常利益＋減価償却費＋支払利息）



Q 長時間労働を減らすためには何が必要とお考えですか（3つまで）。

管理監督者が率先して帰宅する、または部下を帰宅させる	42.8%
フレックス、裁量労働制の導入	38.8%
正規雇用者の増員	29.9%
ワーク・ライフ・バランスの推進	25.9%
成果主義の徹底	25.4%
付き合い残業の禁止（個々の事務分掌の明確化）	20.9%
非正規雇用者の増員	19.4%
ワーク・シェアリングの推進	7.5%
わからない、その他	9.5%